

かじかわ ななみ
梶川 菜々実さん

NPO法人 食の絆を育む会 スタッフ

1997年生まれ。大阪市出身。高校時代にNPO法人食の絆を育む会が取り組む農村ホームステイを体験（浦幌町の農家）。この体験をきっかけに、専門学校卒業後、浦幌町へ移住。同NPO法人のスタッフとして農村ホームステイ事業に尽力する。



心動かされた農村ホームステイを全国の高校生に伝えたい

きっかけ

高校生の時、修学旅行の中で1泊2日の農村ホームステイ(浦幌町)を体験しました。農作物収穫の端境期だったので収穫作業はできなかったのですが、受入家庭のお父さんから、以前不登校になってしまった子をホームステイで受け入れ、その子が体験後、学校に通えるようになり、今は夢に向かって頑張っているという話を聞き、心を動かされました。当時、学校の先生になりたかったのですが、ホームステイを体験してからは、元々好きだった自然と、子どもを結びつけられるような仕事をしたいと考えるようになりました。その後、ずっと連絡を取り続けていた農家さんから、今の職場を紹介していただいて、働き始めました。

満足度

農家さんには、非常に優しくしていただいていますし、学ぶことがたくさんあります。作物や生き物を育てるということは、常に先を見て動く必要があるのですが、今の自分の仕事のやり方を考えるきっかけをいただいています。また、自分自身も体験したのですが、緊張感のある入村式と受入家庭との親密感が生まれている退村式では、雰囲気が全く違うことを毎回感じることができ、自分のことのようにうれしくなります。日々充実していて、こちらにきてから一度もホームシックになったことはないですね(笑)

苦労

今年で11年目になる事業なのですが、当初から受け入れてくれている農家さんたちがご高齢になられたり、自分の子どもが大きくなって受け入れる部屋がないなどの理由で、受け入れが難しいと言われるようになってきました。普段の農作業に加えてのことなどでご負担が大きいのは理解しつつ、丁寧な説明を心がけています。生活面では、周りの人に温かく見守っていただいているので、困ったことはほとんどありません。大阪から来たので、十勝の冬の寒さについては、全く想像外でしたが、水抜きのやり方を教えてもらうなど、いろいろな人に助けられています。

これから

昨年、農村ホームステイを体験した仲間たちと一緒に「事後交流事業」を始めました。ホームステイを体験した子たちが、お世話になった受入家庭のお宅にもう一度帰り、当時の思い出話で盛り上がり、当時には気づかなかった新しい発見ができる機会になっています。受け入れてもらったことは、当たり前ではないことを気付いてもらうことができ、ホームステイで生まれたつながりを、より深められるように活動していきたいです。

地縁もなかった浦幌町に飛び込みましたが、農村ホームステイで出来たご縁で、皆さんに助けられてきました。進路に悩んだときは、周りの人たちのご縁を大切にすると意外となんとかなるかもしれません。